

政治学とは何か

—政治のあるべき場所—

0. はじめに

- ・ 社会組織と秩序の形成及びその正当化の原理
- ・ 各人の生への保障
- ・ 政治哲学であるとともに歴史

1. 正義をめぐる変遷

①古代ギリシアにおける正義

主観主義による社会の独立…すべては人間と相対的に存在する。善悪正邪の判断は神から万人に与えられた倫理観、正義意識により可能 → 社会を自然から独立

②近世ヨーロッパにおける正義

- ・ 王権神授…契約の遵守とその最高概念である国家の絶対化
- ・ 社会契約…自然状態で各人が持つ自然権をよりよく実現させるために、契約を結び政治社会や政府をつくる
- ・ 功利主義…行為が関係各人の幸福の総和の最大化になるよう行われるべき
- ・ 現実主義的見解…政府の継続的サービスの提供による秩序維持

2. 現代の正義論 普遍的正義の模索

①公正としての正義

i ロールズにおける正義 = 公正 = 自由で平等な人々による原理の相互承認

功利主義…責務の存在は経験則（「要約」）にもとづき例外を許容

帰結主義によって結果を予想し、意思決定が原理に先行

社会契約…責務の存在は社会構成員の相互関係から発生する「実践」

受託した時点で権利が放棄され、遵守が原理へ

ii 正義のプロセス

原初状態と格差原理

②ロールズ以降

ノージックの最小国家論

3. 正義の取得

正義とは社会規範の最高規律

- ・合理的人格の肯定
- ・責務による行為の原理化

4. おわりに

【参考文献】

飯島昇藏著 『社会科学の理論とモデル 10 社会契約』 東京大学出版会 2001年

R=ノージック著 嶋津格訳 『アナキー・国家・ユートピア』 木鐸社 1992年

森村進著 『自由はどこまで可能か リバタリアニズム入門』 講談社現代新書 2001年

森村進編著 『リバタリアニズム読本』 勁草書房 2005年

矢崎光圀著他 『法哲学的思想』 平凡社 1989年

デイヴィッド=フリードマン著 森村進訳他 『自由のためのメカニズム』 勁草書房 2003年

ジャン=ピエール・デュピュイ著 米山親能・泉谷安規訳 『犠牲と羨望 自由主義社会における正義の問題』 法政大学出版局 2003年

J=ロールズ著 田中成明編著 『公正としての正義』 1979年 木鐸社

ジョン=ロールズ著 田中明彦編他 『公正としての正義 再説』 2004年 岩波書店

JOHN RAWLS , A THEORY OF JUSTICE , Harvard University , 1971

藤川吉美著 『正義論入門』 論創社 1979年

デイヴィッド・ミラー著 山岡龍一/森達也訳 『政治哲学』 岩波書店 2005年

大川正彦著 『正義』 岩波書店 1999年